

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第十四話

「新冠の戦後開拓について」(要約文)

新冠町の歴史の中で大きな変革期として、御料牧場の解放とともに始まった戦後開拓があります。日高管内の昭和36年の戦後開拓者調査によれば、計1928戸のうち新冠には1076戸という半数以上も入植しており、今日の新冠の基礎づくりが開始されました。

今回は、どのような方々が開拓に携わったのかを一部紹介いたします。

- ・御料牧場帰農同盟〜昭和20年に御料牧場が解体し、牧場職員の同志がいち早く入植したもので、姉去(大富)、萬揃(万世)、雲熱府(緑丘)地域等に入植しました。
- ・帰農団(宮内省奉職者)〜当初、去童(朝日)地区に入植の計画でしたが、すでに農事組合の人達が居住していたために、オシヤマ二(古岸)地域に入植しました。
- ・アイヌ協会〜大正5年、かつて姉去(大富)地域に居住していたアイヌの人々は、牧場の都合によって平取上貫気別に強制移住させられました。そのためにかつての故郷に住む権利を主張し、万世、明和地域に入植しました。
- ・姉去(大富)分場関係者〜大正5年までのアイヌの人たちの居住区は農地とすべく、義務労働としての小作人を居住させま

したが、解放とともに御料牧場帰農同盟と連携して姉去(大富)地域に入植しました。

- ・去童(朝日)農事組合〜明治29年に御料牧場の開拓を依頼された浜口甚四郎が同志とともに組合を作り、敗戦後も去童(朝日)地域に既存農家として入植しました。
- ・太陽開拓団〜満州開拓団、義勇隊の引揚者で森春一を団長として昭和22年に入植しています。二次入植は昭和23年で、主に樺太引揚者と日鋼室蘭の帰農となつていきます。団体の中ではもともと大きな組織で、太陽開拓団雲熱府(緑丘)分団と里平分団にわかれ、昭和24年にそれぞれ入植し、一部では芽呂(美宇)地域にも入植しました。
- ・新栄開拓団〜樺太帰農同盟の斡旋により、樺太引揚者が昭和24年に新栄の高台を主体に入植しました。
- ・一般入植〜団体としてはなく、一般募集の人達で明和、大狩部(大節婦)地域等に入植しました。なお、大狩部では石油鉱区関係者や造材関係者が多く住んでいます。



新冠での開拓の様子〜農耕馬を使って開墾をする(昭和25年頃)

～海や山 約束守ろう 水遊び～

1. 絶対に子供から目を離さない。
 2. 水深が浅いから大丈夫とは考えない。
 3. 天候を考えて、早めに切り上げよう。
- 「安全で楽しい水遊びをして、夏の思い出を作りましょう。」

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
6月	0件(0件)	17件(20件)
元年1～6月	3件(0件)	159件(153件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
6月	0件(0件)	0人(0人)	0人(0人)
元年1～6月	3件(4件)	0人(0人)	3人(5人)

人のうごき

(令和元年6月末現在)

人口 5,523人 (前月比 + 2人)
 男 2,708人 (前月比 + 3人)
 女 2,815人 (前月比 - 1人)
 世帯 2,770世帯 (前月比 + 8世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

